

## 特集

鍼灸スポーツ学科・口腔保健  
学科の新設に当たって九州看護福祉大学学長  
二塚 信

本学は平成十年の開学以来、看護学科と社会福祉学科、さらに平成十八年にリハビリテーション学科を開設し、一貫して保健・医療・福祉の教育・研究の統合に努めてきました。現代の医師を中心としたチーム医療のなかで、狭義の医療サービスのみでは捉え切れない、生活者としての患者・クライアントを対象とした全人的な保健医療福祉サービスの機能分担と連携のあり方を理論的に、そして実践的に追求してきた十余年であったと思います。しかし、現代人の多くが健康法として日常生活に取り入れている様々な予防や治療、さらにはQOLの向上のための方策に、充分対応しているかという疑問に答えることはできない思いがありました。

学内の様々な検討を経て、平成二十二年度より、東洋医学的発想による疾病予防、またスポーツによる健康づくりを組み合わせた新しい構想の鍼灸スポーツ学科、ライフステージのそれぞれの段階のQOLに重要な役割を果す口腔保健指導

を目指す口腔保健学科を発足させました。何れも全国で七校目、九州では最初の大学学科の新設になります。

鍼灸学は、鍼や灸の刺激によって人間が本来持っている自然治癒力を高めようというものです。それらの刺激によって、健康を保ったり、病気になるないようにする働きが認められています。WHOでは、これらの医療サービスを相補・代替医療 (Complementary and Alternative Medicine : CAM) として認知し、このCAMと現代医学を併用した統合 (総合) 医療という概念が国際的に広まっています。特に進む高齢化や生活習慣病、スポーツ障害の問題などさまざまな分野で効果が期待できます。特に西洋医学が対応しきれない「未病」あるいは「末期」の状態などでの西洋医学と組み合わせた鍼灸治療の効果が期待されます。

また、口腔保健の領域をみると、二大疾病であるカリエス (病歯) と歯周病には全国民の九〇%以上が罹患しています。特に高齢社会で重要だと言われる口腔ケアには、口腔を清潔にする機械的な口腔ケアと摂食嚥下を含めて口の機能を回復する機能的な口腔ケアがあります。また、口腔と全身との関わりも注目されています。それらを担う歯科衛生士は益々重要な専門職といえます。歯科衛生士の養成課程は二年から三年に延長されましたが、口腔保健学の研鑽を積み、よりスキルアップした人材を育てるなかで、チーム医療の重要な一員として口腔と全身のかわりや、合併症を持つ臨床疾患の患者

や要介護者への対応などを充分理解しなければなりません。因みに、平成十八年の一医院当りの歯科衛生士数は一・二九人で、人材不足は深刻な状況にあります。

この二学科の開設を期に、保健・医療・福祉に共通のヒューマニティと寛容性、感受性を備えるため、学科横断のリアルアーツのさらなる充実を目指します。他方、四年制大学として、鍼灸スポーツ学科には保健体育の教員免許、日体協のアスレチックトレーナー、健康運動指導士、口腔保健学科には養護教諭の免許が賦与されます。少子高齢化のなか、慢性疾患が増え、健康不安社会といわれる土壌のなかで、国民の関心は疾病の治療のみならず、予防や健康の維持増進、QOLを高めるセルフケアにまで広がります。保健医療のニーズは多様化しています。

幸い、地元玉名・有明地域や熊本県の鍼灸師会や歯科医師会、歯科衛生士会等関連の団体におかれては、これらの学科の発展に多大な理解と期待を示しておられ、教育研究の両面において、また、社会的な職域のキャリアアップや生涯研修の場として十分な協力と連携が得られるものと確信しています。

このように社会的な潜在的ニーズの高まりにいち早く応えるべく、保健医療福祉のウイングを拡げ、深化させようとする教育研究の新しい挑戦に踏み出したところです。皆様のご理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

チーム医療のための  
コ・メディカル育成事業臨床工学技士  
熊本総合医療リハビリ  
テーション学院臨床工  
学科長

田中 信明

臨床工学技士  
熊本総合医療リハビリ  
テーション学院長

寺崎 秀則

一、臨床工学技士とは

朝八時すぎ、「〇〇技官、至急五号室へ」「臨床工学技士、〇〇さん、第七手術室へ来て下さい」と、矢継ぎ早に一斉放送が始まります。これは、熊本大学医学部附属病院中央手術部の毎朝の様子です。この時刻は、患者さんが各手術室へ入り、麻酔と手術の準備をしている時です。麻酔器を初め、患者さんの脳、心臓、血圧、血液、呼吸、体温、尿量等の生命維持に不可欠の機能を秒単位で観察記録し、手術中の安全を守るため十種類以上の医療機器が作動し始めます。特別の状態の患者さんの場合にはさらに多くの医療機器が必要となります。手術専用の医療機器も多数必要ですから、広い手術室も、医療機器で埋め尽くされます。その殆どが、ミニコンピュータを内蔵した複雑で精密な機器です。医療機器間の電気的ノイズ混入等で生体情報を適確にモニターできない不具合が生じると、医師